



競輪の補助事業

この事業は、競輪の補助により実施しています。
<https://hojo.keirin-autorace.or.jp/>

< オリンピック・ムーブメント事業 >

JOCオリンピック教室

実施報告書

大分県 中津市立耶馬溪中学校



公益財団法人 日本オリンピック委員会

「オリンピック教室」の実施にあたって

平成21年4月の学習指導要領から、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが示されました。中学校3年生では、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会などは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしている」現状を通して、オリンピックの意義を学習することになっています。そこで、JOCでは、中学校3年生の体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、平成23年度から授業形式で行う「オリンピック教室」を実施してきました。

近代オリンピックの創始者ピエール・ド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表としてオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その栄誉を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められますが、オリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことの出来ない感動が生まれることが期待されます。

「オリンピック教室」の授業では、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）等を伝えます。同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身が学ぶこともねらいとしております。

平成29年3月公示の新学習指導要領では、新しい時代に求められる資質や能力を子供たちに育むために、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の工夫や改善が求められています。「オリンピック教室」でのふれあいの中での学びが、教科の枠を越え、これからの社会や人生に活かせる資質や能力を育む一助になることを期待しております。また、この授業を通して、生徒の皆さんが、運動やスポーツが好きになり、生涯にわたり豊かなスポーツライフの実現につながることも願っています。

令和5年4月

公益財団法人 日本オリンピック委員会

- 目的： オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、
オリンピック自身の様々な経験を通して
「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、
この価値はオリンピックだけのものではなく、多くの人々が共有し、
日常生活にも活かすことの出来るものであることを授業を通して学習してもらう。
- 事業名： JOCオリンピック教室
- 主催： 公益財団法人日本オリンピック委員会(JOC)
- 後援： スポーツ庁
- 協力： 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対象： 中学2年生
- 講師： オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）※派遣オリンピックはJOCが選定
- 期間： 2023年4月～2024年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数： 80校程度
- 実施方法： クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業

1コマ目 運動の時間 / 50分

身体を動かしながら生徒との距離を縮め、
チームワーク、フェアプレー、身体を動かす
ことの楽しさ等を感じてもらいます。



2コマ目 座学の時間 / 50分

競技者人生を振り返り、自身が感じた
オリンピックの価値を生徒に伝え、
オリンピックをより身近に感じてもらいます。



1コマ目

運動の時間 / 50分

オリンピックの専門競技の技術指導(=スポーツ教室)ではなく、
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶(5分)

準備体操(10分)

主運動(30分)

まとめ(5分)



自己紹介
学習内容の確認



準備体操



主運動
(作戦タイム等を設け、
生徒が考える機会を作る)



運動の時間のまとめ

2コマ目

座学の時間 / 50分

国際オリンピック委員会(IOC)が推進する「オリンピックの価値」等を、オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、あるいは実際にオリンピック競技大会に出場した経験等を通して、分かり易く伝えると同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、今後活かせるような学習内容

挨拶・自己紹介(10分)

オリンピックの価値を伝える(10分)

グループワーク(20分)

まとめ(10分)



学習内容の確認



写真・映像等を使用した自己紹介



オリンピック自身の経験に基づく「オリンピックの価値」等を伝える



個人またはグループワークで話し合った内容を発表



全体のまとめ
記念撮影(クラス写真)

※時間は目安です。
※内容はオリンピックによって変動する場合があります。

●時間割について

- ・1クラスにつき、運動の時間+座学の時間の順に、2時間連続で実施します。
- ・1コマ目の運動の時間は体育館で、2コマ目の座学の時間は当該クラスの教室で行います。
- ・原則1クラスの場合は3-4時限目、2クラスの場合は3-6時限目、3クラスの場合は1-6時限目の調整となります。
- ・1日に実施できるクラス数は最大3クラスまでです。4クラス以上実施する場合は2日間以上での調整となります。
- ・同じ時間に複数クラスを実施することはできません。

■オリンピック：江里口 匡史先生（陸上競技 短距離）【出場オリンピック／ロンドン2012大会】

■期 日：2023年12月8日(金)

■ク ラ ス：1・2学年合同／運動の時間

○自己紹介～授業の目的確認～準備体操



・2012年のロンドン大会に陸上競技の短距離種目に出場したと自己紹介。オリンピックバリューについて説明し、運動と座学の2時間を通して、オリンピックを身近に感じ、またその価値を皆自身が実践できることを理解してもらえたら嬉しい。ぜひ楽しんで取り組んでほしい。準備運動は体育館を2周走り、ストレッチを行った後、ラダーを使ったトレーニングを実施。足だけではなく腕を上手く使うことでリズムよく跳ぶことができる。1回1回丁寧にいき基本をしっかり体で覚えてほしい。

○主運動等



・主運動は「新聞紙を使ったリレー」を実施(全3回)。リレーの前に2人組を作り15m程離れて立ち、新聞紙を使った3つの方法で相手の周りを1周しリレーに向けた練習を行う。1つ目は広げた新聞紙を持って走る、2つ目は半分に折った新聞紙を持って走る、3つ目は新聞紙を体に付けて落ちないように走る。その後、3つの方法で4班対抗リレーを行い着順を競う。途中作戦タイムを設け、走順の変更や走り方の工夫を具体的に考える。作戦タイムで話し合った皆の意見を上手く発揮してほしいと伝える。



・運動の時間を振り返り、リレーでは新聞が破れるハプニングもあったが、諦めずに最後まで一生懸命取り組む姿勢は素晴らしい。各班が良い結果を出すために意見を出し合い、ゴールした後に他の班に拍手を送る様子はオリンピックバリューに当てはまる。座学の時間は、自身の競技人生の中で感じた経験談を話しながら、皆と一緒にオリンピックバリューについて考えていきたいと伝え、授業終了。

■ **オリンピック**：江里口 匡史先生（陸上競技 短距離）【出場オリンピック／ロンドン2012大会】

■ **期 日**：2023年12月8日(金)

■ **ク ラ ス**：1・2学年合同／座学の時間

○自己紹介～授業の目的確認～オリンピックの価値を伝える



・ロンドン2012大会では陸上競技の100mと4×100mリレーの2種目に出場したと自己紹介。リレー種目では日本歴代2位のタイムを出すことができたがメダルには届かず4位だった。100mの自己ベストは10秒07だと話し、中学生から始めた陸上競技は一生懸命練習しタイムが速くなると楽しかった。陸上競技に興味があれば皆も高校生からでも始めてほしい。陸上競技に限らず、目標を見つけることで変化がある。結果が必ず出る訳ではないが、諦めない努力をすることが人間としての価値だと話す。

○個人ワーク～グループワーク等



発問：オリンピックの言葉で印象に残っていること、また、運動の時間に感じたことをオリンピックバリューに当てはめよう。
 発表：エクセレンス：「ブラボー」「失敗しないと成功しない」「新聞紙が破けても諦めずに最後まで走る」「部活で日々努力する」等
 フレンドシップ：「友情はオリンピックに限らず大切だ」「リレーの時に友達を応援することができた」「仲間と協力する」等
 リスペクト：「相手のチームも応援できた」「皆でルールを守れた」等



・運動と座学の時間を振り返り、皆が仲間と一緒に話し合い意見を交換する様子や、仲間を思いやり班のために諦めない姿勢は素晴らしい。オリンピックバリューはオリンピックだけのものではなく、皆の日常の中にもあり自然に考え行動に移すことができる。何か特別なことをしようとするのではなく、毎日の生活の中で少しでもオリンピックバリューを意識して行動してほしい。来年のパリオリンピックを見たら、ぜひ今日のオリンピック教室を思い出してほしいと話し、授業終了。

■集合写真



■記念品贈呈



■修了証贈呈

